

ブルガリアとルーマニアのEU加盟に関する欧州委員会報告書

ブルガリアとルーマニアは、2005年4月にEU加盟条約に署名して以来、2007年1月1日の加盟を目指して、国内の諸改革を加速化させてきた。両国の加盟準備状況を継続的にチェックしている欧州委員会は、2005年10月のモニタリング・レポートの発表に続き、今年5月、新たな報告書を作成、採択した。

その内容は、両国ともEU加盟へ向けた国内改革を前進させているものの、司法制度の透明性確保や汚職の撲滅といった分野で課題が残るため、来年1月の加盟実現の可否については10月初めに最終的に判断する、というものである。他方、同報告書は、両国におけるEU法の国内法への置換やEU基準の遵守は、昨年10月と比べ大きく進展したと評価した。ブルガリアでは、前回報告書で「深刻な問題を抱える」と指摘された政策分野が16から6へ、ルーマニアでは14から4へ減少した。残存する分野には、農業の近代化や食の安全（両国共通）のほか、マネーロンダリング対策（ブルガリア）、他加盟国との相互運用性を備えた付加価値税徴収システム（ルーマニア）の促進が含まれる。

今後、両国政府の課題は、これらの分野を着実にEUレベルに引き上げることだが、欧州委員会はその支援のためにブルガリアに5億2,300万ユーロ、ルーマニアに10億2,300万ユーロを2006年を通じて拠出することになっている。



ブルガリアの風景

ルーマニアの風景

©European Commission

スロヴェニア、2007年1月1日にユーロ導入

スロヴェニアは、政府の財政状況（対GDP比3%以内の財政赤字、同60%以内の政府債務残高）、物価の安定、為替相場の安定、および長期金利の収れん度の4つの条件を満たしていると判断され、2007年1月1日から同国に欧州単一通貨ユーロを導入することが認められた。

この決定は、同国の経済収れん状況報告書に基づいて欧州委員会が行った提案を受け、7月のEU蔵相理事会で最終的に下されたもの。2004年の新規加盟10カ国の中では、スロヴェニアが最初のユーロ参加国となり、これでユーロ圏は13カ国となる。

2004年新規加盟の10カ国は、加盟時点では、ユーロ導入の適用除外を受けていた。欧州委員会はこれら10カ国に対して、最低2年に一度、または加盟国の要請に応じて、当該加盟国が、経済通貨同盟（EMU）に参加する条件を満たしているかどうかを査定しなければならない。スロヴェニアは、欧州委員会と欧州中央銀行（ECB）に対してこの査定申請を行い、今年5月16日に前述の報告書が発表された。同じく査定を申請していたリトアニアについては、同日に発表された報告書に基づき、物価に関する基準を満たしていないと判断された。

スロヴェニア銀行によれば、現通貨スロヴェニア・トラルとユーロの併存期間は、1月1日のユーロ流通開始後、2週間の予定。今後、スロヴェニアは、来年1月1日に向けて、不当な物価上昇を防ぐとともに、市民への周知を徹底するなど、切り替えが円滑に行われるよう具体的な準備を加速させる。

ITER協定仮調印

5月24日、日本を含む6カ国とEUの代表がブリュッセルに集まり、国際熱核融合実験炉（ITER）計画推進の協定に仮調印した。今後、各国・地域内での手続きを経て、今年末までに正式な調印が行われる予定である。



スロヴェニアの2ユーロ（上）と1ユーロ硬貨（下）



ITER協定仮調印（2006年5月24日、ブリュッセル）

この画期的な国際プロジェクトは、エネルギー問題や環境問題への解決策となりうる「核融合」を実現するために、総計で世界の半数以上の人口を有する国々・地域が、共同で実施する壮大なものである。実験炉は、日本の池田要元科学技術庁原子力安全局長を機構長、ドイツのノルベルト・ホルト坎ブ米オークリッジ国立研究所加速器部長を副機構長とするITER機構が、総額5,700億円を費やしてフランスのカダラッシュに建設する。

EUは、建設費の45.5%を負担し、年間300億円の運営費の34%を負担する。また、実験炉本体とは別に、青森県六ヶ所村に建設予定の「ITER関連施設」の建設費等総額920億円の50%を負担する取り決めを日本と結んでいる。

フィンランド、2006年後半の議長国就任

7月1日、EU理事会の議長国がオーストリアからフィンランドへ交代した。フィンランドは、理事会の3カ年戦略プログラムと、前任のオーストリアと共同で理事会に提示した2006年オペレーションプログラムに則って、半年間の議長国任務を遂行していく。任期中、特にフィンランドが特別に配慮しているのが環境問題だ。予定されている約130もの議長国主催会合の開催にあたっては、考慮すべき生態的、社会的要因のリストを作成し、会合準備担当者に手渡している。

任期中の重要会合には、10月にラハティで開かれるEU非公式首脳会議、11月にタンペレで開かれるEU・地中海会議フォローアップ会合、12月のブリュッセル首脳会議が挙げられる。また、9月10、11日の両日、首都ヘルシンキにて第6回アジア欧州会議首脳会合（ASEM6）が開催され、アジアとEUの計38カ国と欧州委員会の首脳を迎え、ASEM創設10周年を祝す。

ASEM6は、アジアとEUの計38カ国と欧州委員会の首脳を迎え、ASEM創設10周年を祝す。



フィンランド議長国のロゴは緑と水に囲まれた北歐の景観をコンセプトに、流れるようなカーブで同国の進歩性を象徴し、透明色を用いることで開放性を表している

